

稲山会 通信

第17号

2008年8月8日発行

発行人：新井昭夫 発行所：稲門山の会事務局 TEL03-3367-3723 FAX03-3367-8150 ©稲門山の会1998

2008年度秋のキャンプのご案内

担当幹事・新井・斉藤延・岡

昨年の丹沢・作治小屋のキャンプに続き、今年も八王子の近郊「ふれあいの里」のキャンプを企画致しました。OBG同期、奥様、ご家族等々の皆様をお誘いあわせの上、是非ご参加下さい。

今年は、上田代表に上手く予約を取って頂きましたので、良い場所が確保できました。交通のアクセスも良く、宿舎も風呂付で綺麗な宿泊場所です。キャンプなので、自炊ですが、屋根付きの快適な場所で、キャンプファイヤーが出来ます。焚火を囲み、懐かしい山の歌を歌いましょう。

1 日 時 2008年9月20日（土）～21日（日）

9月20日（土）の15：00頃までに現地にお集まり下さい。

2 集合場所 「夕やけ小やけふれあいの里」管理事務所前

所在地：八王子市上恩方町2030（高尾駅の西北西7km、陣馬山の東北東5km）

①車利用の方：管理事務所前に駐車場があります。

②電車利用の方：中央線高尾駅北口より陣馬高原下行きのバスに乗車、「夕やけ小やけふれあいの里」の停留所で下車、高尾駅より約30分位。高尾駅発のバスの時間は13:50、14:50、15:50と1時間に1本ですが、JR高尾駅からタクシーでも2,500円程度です。（「夕やけ小やけふれあいの里」はネットで検索頂ければ、案内が詳しく掲載されています。）

3 会 費 6,000円 宿泊をしないで日帰りの場合は3,000円

4 申し込み要領

以下の担当幹事宛に電話・郵便・メールで9月5日（土）迄にお申し込みください。

幹 事	住 所	電話番号	メールアドレス
上田訓央	178-0061 練馬区大泉学園8-3-8	03-3921-3643	kau0716@ybb.ne.jp
吉田 稔	102-0073 千代田区九段北1-9-5-1003	03-3230-0925	good-inter@msh.biglobe.ne.jp
井村英明	244-0801 横浜市戸塚区品濃町553-1 E-303	090-5822-9539	imurahide@yahoo.co.jp
斉藤雄二	350-0052 川越市宮下町1-3-7	049-222-2033	y-saito@jf7.so-net.ne.jp
斉藤延雄	234-0054 横浜市港南区港南台9-19-1-601	090-2649-5609	nobuo_saitou@tokyotekko.co.jp
新井昭夫	351-0114 和光市本町31-3-1011	048-461-0783	araia@nifty.com
岡 康彦	158-0082 世田谷区等々力3-28-17-302	080-3417-3863	fujioakay@fujisteel.co.jp

5 その他

- ・宿泊場所は10畳の部屋を4部屋、21畳の部屋を1部屋予約済みです。
- ・自炊です。20日（土）の夕食（バーベキュー）、21日の朝食は準備致します。
- ・綺麗な風呂が宿泊施設の建物内にあります。
- ・自炊場及びキャンプファイヤーの場所と宿泊施設は少し距離があります。夜は移動しますので、懐電・ヘッドランプを持参して下さい。
- ・管理事務所から入る際、入場券200円が掛かりますが、宿泊者は不要です。入場の際に「稲門山の会で宿泊する者」と伝えて下さい。
- ・前後にハイキングをされる方は、陣馬山一景信山がお勧めです。約4時間の快適なハイキングコースです。

現役学生の現況とOBGへのお願い

1 現在の山の会

早稲田大学山の会の現役は本年3月末には活動会員2名に減少しました。7～8年前に一時活動停止の状態になり、あわててOB会が動き出し、濱田OB（早大理工教授）の研究室の学生を中心に活動を再開しました。その結果一時会員数も増え夏合宿なども活発に行われるようになりました。このような状態の中で学生からはOBによる指導・助言がわずらわしいとの声もあり、ここ2～3年、OB会は現役の活動を単に見守ることにしてきました。

今春現役の野村君（前幹事長）から「後輩がいなくなるので、新人募集をしたい」との話が持ち上がりました。今回は現役野村君にOB会が協力する形を取り、OB会はポスターの作成などを手伝いました。本年度の募集のテーマは『アウトドア』と『野口健さんと環境』です。

大学への届出は濱田研究室の学生も含めて25名を数え、存続は可能になりました。

この間4月からの新人募集では10人くらいが参加希望しましたが、現在は実質3名が残っており、野村君たちと合わせて5名になりました。（募集はまだ続けております。）

2 新人募集について

現役の野村君が言う「後輩がいなくなるのはさびしい」の声を受けて、OB会では上田代表をはじめ全員でどのようにしたら若い学生が入会するか検討と活動を始めております。OB会はあくまでもサポートとして、①弱小クラブの乗っ取り、②高校ワンダーフォーゲルや山岳部への勧誘、③OB会ホームページにおける現役募集の広報、④知人への紹介依頼、⑤出身高校へのPR、などを考えて実施し始めました。

本日はこの中で「④知人への紹介依頼」について述べさせていただきます。

3 早大生および早稲田大関係者の紹介依頼

早稲田大学には多くの学生と教職員など関係者がおります。私の例ですが、住まい（松戸市）の近くのテニスクラブで遊んでいる友人の息子さんが今春卒業した早稲田の後輩とわかりました。このように山の会のOB・OGの皆さんのネットワークを探せば関係する人が見つかるのではないのでしょうか？ これらの関係者に「山の会」入会希望者を口コミで探していただくのが一つの方法です。紹介いただいた学生など関係者には「挨拶状」「募集ポスター」と「募集のビラ」をOB会から送らせていただくことを考えております。

4 早稲田大学山の会のテーマ

最後にWMSのテーマですが、「研究と山」、かつて資料部・気象部・地歴部・生物部・厚生部と5つの部に分かれて活動していました。今このテーマを見直してみたいと思います。今年吉田OBから現役に「不都合な真実」アル・ゴア著が贈られました。地球環境に影響を受けるのも山です。酸性雨による森林の被害、開発による生物の絶滅、氷河や雪田の減少など山岳地帯では多くの影響を受けております。これらをどのように考えるか、いろいろな興味を持った学生が山の会で活動できれば良いと考えております。

最後に諸先輩・後輩の皆様にご意見をいただければ幸いです。またあわせてご紹介をお願いいたします。

現役学生担当幹事 鈴木明人

会員近況報告—2008年新年会返信はがきより

- ・11月、チベットのラサ経由で3度目のカトマンズに行きました。ポカラ周辺で軽いトレッキングを楽しみました。(吉澤章仁郎 S.35卒)
- ・ボケ防止、脳トレーニング、達成感、まあいろいろな理由にかこつけて、月に20日間の仕事、1週間3スクールのダンスに励んでいる毎日です。(石川俊弥 S.37卒)
- ・元気です。月に2回は山靴(冬はテレマーク)を履いて野山を“徘徊”しています。今年は古希を迎えますが、“元気なじいさん”をつづけたいと思います。(恩田和夫 S.37卒)
- ・先日、同期の松本公一君と二人で、奥武蔵より奥多摩に抜ける、西吾野→子の権現→棒の折山→川井と、久しぶりに歩いてきました。低山ですが、寒さが厳しかったです。結構な長距離で8時間ほど歩き、翌日は筋肉痛に悩まされました。(真下健弥 S.39卒)
- ・先週、スイス・グリンデルワルトでスキーを楽しんできました。アイガー、ユングフラウの名峰を眼前に、広大なエリアを6日間滑りました。長距離なので、行く前は少し不安でしたが、快晴続きで最高のスキーとビールを満喫できました。これも山の会の先輩方のご指導のおかげです。(井上昌代 S.40卒)
- ・「東京・街の風景」・黒白での写真展を、昨年は3回開催できました。今の東京を記録する意味もあって、今年も引き続き行います。そのため、毎日カメラを持って23区を徘徊しています。(保屋野厚 S.40卒)
- ・元気です。富山・東京・大阪から友人が呉の「大和ミュージアム」を見物に来てくれています。近くへ来られることがありましたら、お立ち寄り下さい。(布村征司郎 S.41卒)
- ・年末に約40年勤務した会社を退職。4月から家裁の調停委員をやる予定ですが、しばらくはフリーな時間を楽しみたいと思っています。春には四国八十八か所の歩き遍路をやるつもりです。(佐久間正昭 S.43卒)
- ・現在、ソニーマーケティングという会社で法人営業を担当しております。山には全く行かず、キャンプでお茶をにごしておりましたが、最近はそれもさぼりっ放しです。(辻和利 S.53卒)
- ・昨年は博土山と川桁山に行きました。今年は吾妻か飯豊を縦走したいと思っています。(荒井英明 H.6卒)
- ・先月末に結婚し、充実した日々を送っております。(栗田誠 H.15卒)

若手OBの近況報告—井村OBへの連絡より

ご無沙汰しております。佐々木です。現場生活も1年が経過し、大分仕事になれてきました。工事は現在最盛期を迎えており、毎日、山本OB(2005年理工院卒・西松建設)とともに現場を走り回っています。登山の方は、学生の頃ほど出来ませんが、今年に入ってから、何とか、月1回の登山と週末のトレーニングをしています。5月GWは赤岳で、雪歩きをして来ました。忙しい今は「続ける」ことを目標に頑張ろうと思います。さて新人の指導の件は、私も以前から聞いており、何とかしたいと思っていますが、名古屋に住んでいる上土曜日にも出勤している為身動きが取れません。また5月に子供が産まれたため、1年間は無理そうですが、アクセスの良い八ヶ岳、南アあたりで、登攀に挑戦したく思っております。雪上訓練などあれば、是非参加したいと思っています。今後とも可能な限り協力して行きたいと思いますので、宜しくお願い致します。

清水・西松・鉄建特別共同企業体 佐々木直之(H.17理工院卒・清水建設)

山スキー事始め

スキーを最初にやったのは、高校1年生の時。姉に連れてもらって越後中里でやったことは今でもはっきり覚えている。大学に入り、山の会時代は、雪山中心でスキーはやらなかった。社会人になっても、暫くは雪山には行ったがスキーはやらなかった。2回目の駐在がカナダ・トロントだったので、大きなゲレンデではなくても身近にスキー場が沢山あったので子供と一緒に良く行った。モントリオールにも行った。凄い寒さでゴンドラから降りるときは目だけを出して、後は、粉雪の中を一気に滑り出した。その他では、山の会の春のスキーには殆ど参加してゲレンデ・スキーを楽しんできた。又、先輩の小谷さん達に誘われて日光・戦場ヶ原のクロ・カンも何回かやったりしていた。

暫くして、後輩の箕打から「山スキー」の話を聞き始めた。「シール外してパイプの煙」、格好いい歌だと前から思っていた。そして、思い切って始めてみようと思うようになった。2006年の春、新大久保の石井スポーツで「山スキーは全くの素人。ゲレンデはやっているがこれとて素人の自己流スキー、但し雪山は学生時代やっていたよ」と言って、適当な道具を紹介してくれと頼んで揃えた。靴、ビンディング、ストック、シールは全て言われるままの道具にした。特に、靴は薦められるままに。板については薦められた板は最新のものでかなり高額。これだけは、節約しようとモデルは古くて良いと言って安い数年前のモデルのものにした。かなり興奮して揃えたのを思い出す。

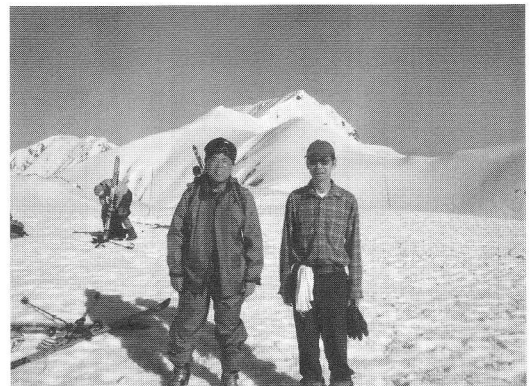
さて、第1回目の初めてのシールをつけての山スキー。場所は2006年5月の立山。その後、箕打、松村（幹）の3人で行き始めた。1回目は上述の2006年5月の立山、その後、2回目は2007年2月のかぐらみつまた、3回目は2007年5月の尾瀬・至仏山、4回目は2008年2月の菅平・根子岳、5回目は2008年3月の守門岳。以下、素人の60歳近くで始めた山スキーの思い出を書いてみた。

立山：2006年5月3日～5日 箕打、松村との3人で車で。

3日 5:40新宿安田生命前集合、14:00扇沢着、黒部のトンネルを経由して雷鳥荘着は17:15。黒部のトンネルは初めて。その凄さに感激した。良くも、こんな工事をやり遂げたものだ。室堂の駅に下り立ったら一面の雪景色。思わず、初めての山スキーであることを忘れて、ゲレンデの要領で滑り出す。ざら目の雪はスピードが出るのに驚く。止まるに止まらない。背負っているザックの重さもゲレンデとは違う。バランスがとり難い。横に倒れて止まるしかない。雷鳥荘に着くまで何度も転ぶ。何回もズボーと腰まではまり込み泣く思いで立ち上がる。転んだ時に左足の膝をひねる。雷鳥荘の風呂から奥大日岳が真正面に見える。

4日 6:00朝食、7:00行動開始。昨日の捻挫が熱を出して曲げると痛い。何回かトライしたが、初めての事でもあり、一緒に行動は無理と判断。箕打と松村は予定通り、剣御前に向かい雷鳥沢を滑りに行く。一人でシールを着けて歩いたり、外して滑ってみたりする。奥大日の稜線までスキーをデポして歩く。しかし、時間もたっぷりあるし、天気も良い。体も慣れて来たのでなだらかな一の越までなら大丈夫だろうと考えスキーを担いで歩き出す。ザックの横にスキーを留められることはこの時は知らなかった。肩に担いで歩く。一の越まで約2時間掛かった。一の越からの後立山の連山が美しい。下りは自己流の、足を大きく開き、腰を落としたボーゲンで下りる。なだらかな所は思い切って一直線に。そして、転んで止まる。降りてきて残った時間はT-Barを使って松村と練習。箕打は雷鳥沢を滑った後、又一人で小走谷を滑りに行った。元気に敬意。

5日 7:50雷鳥荘発、扇沢に11:20着、新宿に戻ったのは18:20。箕打は一人で一の越に向かう。新井と松村はのんびり室堂駅に向かう。今日も天気は快晴。一の越から黒部湖に滑り下りてき



た箕打と扇沢で合流し車で帰る。連休の合間でそんなに混雑はしていなかった。

尾瀬・至仏山：2007年5月4日～5日 箕打、松村との3人。

4日 大宮駅7:45、沼田9:25、鳩待峠12:00。12:20歩行開始、至仏山頂着15:15。ムジナ沢を滑る。山の鼻小屋着16:30。小至仏を越えた辺りのなだらかな稜線からの左に見える、巻機山であろう雪の連山が神々しい。ムジナ沢は少し急だが広くて何処でも滑れる快適な沢。人もおらず、自由を感じる。天気も良く、体を思い切って前に持って行き、板の上に乗る感じで滑る。相変わらずの足を開いてのボーゲンだが、体重を移動したら、スキーが自動的に回転してくれる感じがつかめたのが嬉しい。降りてきて、小屋へ行くまでの樹林帯では苦勞する。何度も転ぶ。

5日 箕打と松村はもう一本やると言って至仏にむかう。当方は全く行く元気も気力も無し。尾瀬ヶ原を散策し、スキーを担いで鳩待峠に向かう。戸倉でのんびりして時間を過ごし、二人と合流して沼田で一杯やって一緒に帰る。

根子岳：2008年2月11日 箕打と2人。

実は、前日の予報で明日は快晴。こんな日を無駄にするのは勿体無いのでガーラ湯沢でスキーをやろうと切符を買った。切符を買って家に帰ってきたら待っていたように箕打から電話。根子岳に山スキーに行こうとの電話。急遽切符を買いなおした。菅平のスキー場をリフトを乗り継いで歩行開始地点に着く。登り2時間、下りは1時間も掛からない。初心者コース。物凄く寒い。その分、景色が素晴らしい。ガイドブックに書いてあるとおりの北アルプスの連山が白馬から槍・穂まで、「銀屏風」その通りに見えた。寒さで凍っている雪面と、風に飛ばされた柔らかい雪が重なっている雪面とがミックスしているので注意が必要。全体になだらか。菅平のスキー場を滑りながらバス停まで降りる。菅平のゲレンデはただ広いだけで面白くない。

守門岳：2008年3月22日～23日 箕打、松村との3人。

22日 和光10:00集合。途中、2年前の秋に同じ3人で浅草岳に行ったときに寄った、須原スキー場の下、同じ食堂で昼飯をとった。秋の浅草岳が懐かしく思い出される。又、この辺に来る時は、ここで食べようと思った。車なので残念ながらビールは飲めない。15:00、魚沼市営の青雲館に泊まる。近年新しくした小奇麗な宿。温泉も良い。明日滑り始めるところまで見にゆく。車が通るとこだけ除雪された、両側は3mくらいの雪の壁。丁度降りてきた地元の高齢（60歳超だろう）のご夫婦に会う。このように地元の人々は楽しんでるのだ。

23日 6:00起床、昨晚弁当を作って貰っておいたので早々に宿を出る。駐車場まで約20分。7:15歩行開始。雪のたっぷりある平らな所をシールを着けて歩き始めたが、登りの樹林帯にまもなくなくなり、スキーを外し担いで登る。保久礼小屋まで約2時間。小屋の先から急登になる。ここで、初めてクライム・サポートという機能を知る。これを使うと大分楽。暫く歩くと樹林帯を抜け一面の雪の斜面。まもなく大岳のピークらしいが、足が前へ出ない。右・左、右・左と50cmずつ位の稼ぎで歩を進める。途中で50歳位のおばちゃんに抜かれたのはショック。約4時間掛かってピークに着く。ガイドブック記載の「東洋一の雪庇」は見事。やさしそうな雪の稜線。スコップを担いで歩いている人の理由がわかった。休む時に穴を掘って風を防ぐ為。約40分休んで滑り出す。右側は雪庇、左側はやや急な沢筋。天気が良いので迷うことは無いが、

雪庇の方へ行かないように注意して滑る。多少の緊張感を持ちながら滑り降りる。楽しく滑れる適度の斜面。暫くして樹林帯に入る。ここからが、難行・苦行であった。何度転んだ事か。疲れと不甲斐なさで泣きたくなってきた。樹林の中を飛ぶように滑り降りて抜いて行く人がいる。彼は人間なのかと思う。何とか2時間掛けて駐車場に着いた。満足感がじわじわと沸いてくる。良くやった。でも、これくらいで、この思いでは、もう限界かなとも考えた。小出の町から見る越後三山は、たっぴりと雪で覆われ美しい。ラーメンと餃子を食べて帰路に着く。15:15小出インター、和光着19:45。

新井昭夫（昭和46年卒）



雪倉岳スキー

四月の末に雪倉岳に行ってきた。八年前、山スキーを始めた頃はどこに行けば良いのか判らず尾瀬にばかり行っていた。四年前から一年先輩の松村さんと一緒に行くようになり対象とする山も徐々に広がってきた。

三年前に雪倉岳に行くことにした。白馬駅に着くと強風のため梅池のゴンドラが動いていないことが判った。仕方なく雪倉はあきらめ、翌日、白馬乗鞍岳に登り猿倉へと降った。

去年は、四月の初旬と下旬に、一人で出掛けた。初旬の時は梅池自然園から歩き始める時になってビンディングが壊れていることに気づき梅池ヒュッテに一泊して帰って来た。下旬は、蓮華温泉まで辿り着いたが、行動食を天狗原に置き忘れるという、お粗末な失敗をしてしまい又しても雪倉に向かうことができなかった。

今回、四度目にして、やっと頂上に立つことができた。蓮華温泉からのルートは一旦、登りを交えて瀬戸川まで降り、そこから四時間程ひたすら登り返すというもので体力的に不安を感じていたが案の定、最後はきつくなり少し歩いては立ち止まるという状態になってしまった。しかし、頂上からの三百六十度の展望と標高差千二百メートルの滑走は登りの苦労を償って余りあるものだった。蓮華温泉に戻りロッジ前から雪倉岳を仰ぎ見ると自分の登ったと思しきルートが大斜面の中央を、ほとんど真直ぐに頂上へと向かっている。向かって右手の稜線近くを登るものと思っていたので、驚くと共にささやかな喜びを感じた。

天候やお粗末な失敗の為に頂上に立つまでに何度も通うことになったが、それなりに良い経験であったと思っている。

去年は雪が少なかった為か、蓮華温泉の宿泊客は私を含め五人だった。その内の三人は天狗原でお見かけした時から相当な年配という印象を受けていたが夕食の時、同席すると「誰某はモンブランに登れなかった。七十歳を越えるとガイドもテストをするらしい。」「誰某は登ったぞ。」などと話している。どうやら七十歳を越えているようだ。とてもお元気でロッジから十五分程登った所にある露天風呂にスキーで来ていた。翌朝も雨模様の中、木地屋を目指して降っていかれた。

又、今回、雪倉の頂上に着いた時、蓮華温泉からの六人の他に、二人の男がいた。二人とも朝早く猿倉を登って白馬岳経由、登って来たとのこと。一人は朝日岳まで行くつもりだったが遅くなったので、ここから蓮華温泉の方へ降ると言う。若い人或いは力のある人はスケールの大きな山登りをしている。

それにしても今回は体力不足を痛感した。年齢が年齢なので、いまさらトレーニングをしてまで山登りをするのではないと思ってきたが、やはり少しは鍛える必要がありそうだ。自分に合った軽い運動をして今しばらく山登りを続けたいと思っている。 箕打達郎（昭和49年卒）

家づくり物語

6年前から群馬県に住んでいます。今、榛名山麓で家をつくっています。木造2階建て、床面積29坪。ツーバイフォーでつくる家です。設計、建築確認申請、施工、監理とぜんぶ自分でおこなっています。建築基準法を調べてみると、100m²未満で2階建て以下の木造住宅は、設計や施行監理に建築士の資格はいりません。だれでも、自分で設計をし、自分で家を建てていいのです。家を建てる土地には水道と電気がなかったので、東電に電柱設置申請をして電気を引き、深井戸を掘ってライフラインを確保。1月に申請した建築確認も、2月にゴーサインが出ました。家づくりのスタートです。建築工法でツーバイフォーを選んだのは、家づくりの経験がなくても学び

ながら建てていけると判断したからです。ツーバイフォーは、はじめに土台の上に平らな床をつくり、次に床の上で壁をつくり、組み立てていきます。1階の壁が組みあがると、その上にまた2階の床をつくり、床の上で2階の壁を組み立てます。そして2階の壁の上に屋根をかけます。ツーバイフォーは、はじめに平らな床をつくり、その上で壁をつくって下から順に積み上げていくので、別名プラットフォーム工法とも呼ばれています。大工の棟梁の下、柱を立てて梁をわたし一気に屋根までかけてしまう在来工法の家とは、作り方が違います。(工務店のつくるツーバイフォーは、工場で作られた壁を現地で組み立てるので早いのですが。) ツーバイフォーは、基本的には一人でこつこつと建てていくことのできる工法ですが、人手を頼んだほうがいいときがあります。「壁起こし」です。壁起こしは、床の上でつくった壁を起こして組みあげる作業です。榛名山麓でつくっている家の1階南側と北側の壁は、高さ2.4m×幅9.5mあります。この大きさの壁をパートナーと二人だけで起こすのは無理。そこで地域の仲間、山の会OB諸兄に手を借りることにしました。

壁起こしは、5月10日(土)。天気予報では、午前中は曇りのはずが朝から小雨。それでも東京から、新井さん、豊田さん、箕打さん、豊田さんの奥さんが駆けつけてくれました。山の会同期の本田は、前日からわが家に来ています。新井さん、箕打さんに会うのは、四半世紀ぶり? 現役のとき、コーチ会や雪上訓練でお世話になりました。豊田さんと会うのは2週間ぶり。ゴールデンウィークに、この榛名山麓の現場を奥さんと訪ねてくれたのです。豊田さんは、私が現役のとき、8年ぶり? に南米遠征から帰ってきた伝説上のOB。一昨年の山の会50周年パーティで豊田さんに再会したとき近況を話し、4月に豊田さんが足を運んでくれたことから、今回のOB諸兄による壁起こしサポートが誕生しました。

午前11時、雨が小やみになったところで、壁起こし開始。二人ではあがらなかった壁も、元山男たちの手にかかるすとすなりと立ち上がっていきます。壁の位置を合わせて釘を打ち、垂直を確かめて仮筋交いを組みます。こうして風が吹いても壁が倒れないように固定します。南側と北側の2枚の大壁を起こしたあと、雨に濡れないよう雨よけのシートを掛けます。実はこのシート掛けが大変なのですが、山でのテント設営になれている人ばかりなので、雨が本降りになる前にすばやくシートを掛け終えました。案じていた壁起こしも、延べ人数10人あまりの人の手を借りて1時間半ほどで終わりました。作業のあとは宴会です。雨よけのシートの下で、タケノコごはん、赤飯(豊田さん持参)、タイのトムヤム風鍋、敷地に自生しているタラの芽などの山菜天ぷら、ワラビなどを肴に、持ち寄ったビール、焼酎、酒を吞みます。腹が一杯になると男性は腹ごなしにタケノコを掘り、女性はワラビ採りをしました。タケノコとワラビはおみやげです。宴会のあとは、地元の温泉に行き、汗を流してもらいました。元山男の集まりも、気づけばみなさん50代(新井さんは+α?)。ほんとうのことを言うと、来ていただくありがたさのいっぽうで、現場でのアクシデント、怪我を案じていました。でも、風呂上がりのさっぱりした顔、みなさんの笑顔を見て、心配も消え、壁起こしも無事終わったことで一安心。新井さん、豊田さん、箕打さんの、気遣い無用のごつくばらんな雰囲気感謝。本田も駆けつけてくれてありがとう。いつになっても頼りがいのある山の会OB諸兄でした。

追記: その後の「家づくり」のようすは、ブログ「家づくり日誌」をご笑覧下さい。また、5月10日の壁起こしのようすは、本田のHP「昼のガスパール」の「群馬・倉渕旅行記」に詳細が載っています。

「家づくり日誌」 <http://pub.ne.jp/tabikarasu/>

「昼のガスパール」 <http://homepage2.nifty.com/fledermaus/traveltop.html>

早川明利(昭和54年卒)

2007年度会計報告 (2007年1月～12月)

2007年12月31日現在

1) 一般会計				
収入・支出の項目	収 入	支 出	残 高	備 考 欄
前期からの繰越金			2,898,339	
2007年度の年会費納入額	555,000			
新年会費徴収額	279,500			
預金利息額	4,005			
創立50周年寄付金の追加納入額	47,000			追加寄付分
新年会支払額(大隈会館・リーガロイヤルホテル)		361,100		現役分含む
ホームページ・インターネット基本料(年会費)		15,756		
東京都山岳連盟年会費		20,000		
役員会大隈会館使用室料(年4回)		25,200		定例役員会
「稲山通信」印刷・経費(年2回発行)		70,350		全OBGに送付
事務局通信費等(封筒・返信葉書・切手等々)		200,000		
支払経費の振込代及び雑費		22,210		
計	885,505	714,616	3,069,228	
一般会計の各口座別残高内訳表				
①日本郵政公社口座			2,236,362	銀行残高証明書確認済
②みずほ銀行口座			441,466	銀行残高証明書確認済
③日本郵政公社振替口座(年会費受取口座)			391,400	銀行残高証明書確認済
計			3,069,228	
2) 特別会計・遭難対策積立金				
			2,000,000	銀行残高証明書確認済
合 計			5,069,228	

会計担当幹事 関根聰一郎

編 集 後 記

原稿を書いている7月13日(日)、日本TVの「波乱万丈」に出演した三浦雄一郎をみた。エベレスト滑降の時、クレバスに落ちる直前で、外れたスキーの板が目の前に来たので、それを抱えてブレーキにして止まったと、臨場感溢れる説明。又、次男、豪太の無事が2回目の遠征の一番嬉しい事だったとの発言に、ほろりともさせられた。足元にも及ばない一般の山好きの人間だが、目標を持つことの大切さは皆に共通するのではないか。今回は、山の会のOBの内「若手」中心で纏めました。HomePageの記事との関連も気になりますが、何とか原稿を集めることが出来ました。秋のキャンプ、是非ご参加下さい。

新井